

令和5年度 新潟県学校栄養士協議会 全体研修会報告

実践発表：ICTを活用した食に関する指導

聖籠町立山倉小学校（聖籠町学校給食共同調理場）栄養教諭 滝沢 若奈

ICT環境を整備したことで食に関する指導の選択肢が増えた。ロイロノート（授業支援アプリ）で学級担任にその日の給食で使用する食材の写真等を送付すると、その日の給食指導ができる。従来は、指導資料の作成・印刷・配付・学級担任への連絡等たくさんの時間を要したが、ICTを活用することによって、指導資料作成にかかる時間を減らすことができた。また、全教職員が閲覧できる食育フォルダに、栄養教諭が作成した指導資料や動画等をストックしておくことによって必要に応じて活用できるため、学級担任による食に関する指導の回数が増えた。

さらに、Zoomミーティングを活用すると、調理場と教室（児童）を繋ぐことができる。双方のやり取りができるため、より臨場感あふれた活動を行うことができる。

実践発表：特別支援学校での食に関する指導

新潟県立はまなす特別支援学校 栄養教諭 常山 優希

令和3年度より、給食施設をもたない学校に栄養教諭が配置された。そのうちの一校が新潟県立はまなす特別支援学校である。はまなす特別支援学校の給食は、柏崎市枇杷島地区学校給食共同調理場より配送されている。はまなす特別支援学校に栄養教諭が配置されたことにより、給食の二次調理の問題点を解消し、給食時間等の食育を充実させた。食育において、実物大の魚のプレートを使用し五感に訴えたり、障害特性のためによく噛むことが難しい児童生徒に対し、スルメを実際に噛む体験をさせたり、おやつの指導では発語がない生徒に対し、言葉を発しなくても参加ができる〇×カードを使用したりと児童生徒の実態に寄り添った指導を行っている。

講義：「個別的な相談指導を進めるために～基本から実践力を身に付ける～」

和洋女子大学家政学部健康栄養学科 教授 杉浦 令子 様

学校では、毎年春に健康診断が行われ、このデータを基に児童生徒等の発育評価を行うために「身長・体重成長曲線」及び「肥満度曲線」を活用し、健康管理を行う。子どもの身体状況等を栄養計画や栄養評価に反映させるには、体格評価指標について正しく理解すること、対象者の体格評価を正しく行うことである。個別的な相談指導は、その課題の改善を目的として期間を決めて定期的・継続的に指導を進める。

個別的な相談指導で重要なことは、子どもの正常な成長を保証するために「身長・体重成長曲線」や「肥満度曲線」を描いて、経過をみながら対応することである。「身長・体重成長曲線」や「肥満度曲線」の変化は、目に見えて分かるため、子どもや保護者が変化を認識しやすい。

学校における肥満での個別的な相談指導の対象となるのは、主として軽度肥満・中等度肥満である。各々が抱える課題の改善を目的とし、期間を決めて、定期的・継続的に指導を進めることにより、対象の児童生徒の行動変容を促し、良好な生活を行うための習慣を獲得できるようにする。